2018年9月号「vol.99」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-10-6　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-751-7600

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

川崎中心に70万平方キロが浸水の恐れ 県が東京湾での高潮被害想定を発表

台風のシーズンを迎えていますが、近年、台風が大型化する中でこの被害も大きくなっています。気圧の低下による海面の上昇と強風により海水が海岸に吹き寄せられることで発生する高潮の被害も目立つようになってきています。2017年10月の台風21号では、高潮により藤沢市の湘南港の護岸フェンスが破損したり、磯子区の港湾施設でも被害が発生しました。高潮対策の第一弾として神奈川県では東京湾に面した県内の地域（川崎、横浜、横須賀、三浦）における高潮被害の想定案をまとめ8月10日に発表しました。

高潮により湘南港護岸フェンスが倒壊

それによりますと、高潮の浸水が想定される区域は芦ノ湖の約10倍に相当する約70万平方キロに及び、中でも湾の奥に位置し多摩川と鶴見川にはさまれたエリアで深刻な被害が想定されるとしています。川崎市川崎区ではほぼ全域が浸水し、JR川崎駅東側では浸水が最大5メートルに達し、横浜駅周辺も水深3メートルの被害が見込まれています。横浜市では沿岸部全域がほぼ浸水被害を受けると想定されますが、磯子区では沿岸の埋立地周辺がこれに相当します。県ではこの想定案を基に、今年度中に「浸水想定区域」を指定し、各市と相談しながら図面の作成を行うことにしています。続いて今年度、湘南や西湘の相模湾に面した地域での浸水被害想定の検討に着手し、来年度の区域指定を目指して作業を進めることにしています。

これは想定しうる最大規模の高潮の浸水区域を明らかにし避難体制の充実・強化を図ることを目的に国が2015年度に水防法を改正したことに伴うもので、県では昨年度、学識経験者、県、沿岸市による「東京湾沿岸高潮浸水検討会」を設置して作業を進め、8月の同浸水想定連絡会のシミュレーション結果を踏まえて公表したものです。今年3月には東京都が全国で初めて、高潮浸水想定図を公表（23区の3割で浸水、最大深さ10メートル）しましたが、今回の県の想定図発表はこれに次ぐものです。

今回の作業では「想定しうる最大規模の台風」として中心気圧が室戸台風の規模を持ち、伊勢湾台風の暴風半径とスピードで進む台風を想定して行いました。各市では県の浸水想定区域の指定を基に、地域防災計画に「高潮水位情報の伝達方法」「避難場所、避難経路」などを加え、ハザードマップを作り、市民に周知を図る段取りになっています。

コレが言いたい！

今後、県では「高潮浸水想定区域」の指定を行い、より詳細な浸水状況を把握できる図面を今年度中に公表します。これを受け沿岸市ではハザードマップの作製を進める事となります。川の氾濫に対する「洪水ハザードマップ」や土砂災害が発生した場合の「土砂災害ハザードマップ」はすでに磯子区のHPから閲覧できますので、是非ご自宅付近の状況を確認して下さい。

今月のひと言

9月はベトナム月間！ 9月7（金）から9日（日）、4回目を迎える「ベトナムフェスタin神奈川2018」が開催され、今月は各地域でベトナム関連イベントも実施されます。また、日本とベトナム「外交関係樹立45周年」を迎える本年はハノイ市で「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI」が開催されます。

磯子 あれ？これ？

かいば次良（ジロウ）地蔵（洋光台3-12）

今からおよそ250年前、洋光台北団地周辺は松林、雑木林のほか「かいば」と言う茅の原でとても寂しい場所でした。

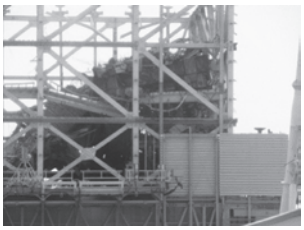
夜になると、イノシシなどが出没して村民などが襲われたりしていました。この頃、どこの地から来たか分かりませんが、次良（ジロウ）という男がこの地に住み着いて、村人がイノシシに襲われないようにと夕暮れになると火を焚いて守ってくれていました。あるとき次良は大きな手負いイノシシに食い殺されてしまいました。そこで世話になった村人たちが彼の死を哀れみ、住んでいた小屋の近く（現北団地第二集会所周辺）に、お地蔵様を祀って次良の霊を弔いました。大きさは62㎝。地蔵尊の光背部分には「宝暦13（1763）年10月吉日　かいば次良」と刻まれています。

何年かして、お地蔵様を金山寺（洋光台3-22）境内に移しましたが、明治元年（1868）、金山寺は廃寺となり、お地蔵様は近くの来光寺（洋光台3-12）に移されました。その後、村内に怪火が頻発して現れるようになったので、お地蔵様を旧金山寺下の道端へ移しました。

その場所も宅地造成され、お地蔵様は20年前再び来光寺でお守りするようになりました。

参考：磯子の史話・地元の方の話

活動報告



福島第一原子力発電所1・3号機。1号機は飛散防止対策を講じながらガレキの撤去を、3号機は燃料取り出しのためドーム屋根の設置作業が進められています。

大熊町の帰宅困難区域

自民党県議団有志で福島第一・第二原子力発電所の視察を行いました。大熊町の帰宅困難区域は、震災で壊れた家等がそのままの状態で残っており、田んぼだった場所は草木が生え田んぼの面影は全く残っていません。第一原発は廃炉作業が進められていますが、例えば工事により粉塵が飛ばないようにするための作業を行うなど安全を最優先としているため、作業には30～40年かかる見込みです。

福島第二原子力発電所4号機
原子炉建屋・原子炉格納容器内

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- ともに生きる社会推進特別委員会委員長
- 美しい環境づくり推進協議会委員
- 政務調査会副会長

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-751-7600